

<総括>

試験時間	90 分	総解答字数	1050 字
------	------	-------	--------

國部克彦「リスク社会における責任と倫理——混乱を克服するために」を用い、リスク社会における「責任」について、自らの経験や認識をもとにして論述することを求める出題である。課題文にある議論を用い、自らの経験や見識に引き付けて考えさせるという、名古屋大学法学部によくみられるタイプの出題である。今回の出題は、課題文が昨年の12ページから11ページへと短くなり、解答字数についても1100字から1050字へとわずかながら減少していることから、昨年に比べて負担は少なくなっているといえるが、筆者が展開している議論を丁寧にたどりながら、具体的な状況を想定して論述することを求めるという高度な能力が要求されていることから、問題の難易度自体に大きな変化はないといえる。

<課題文の分析>

大問番号	
内 容 (主題)	リスク社会における「責任」
出 典 (作者)	國部克彦「リスク社会における責任と倫理——混乱を克服するために」(國部克彦・後藤玲子編著『責任という倫理——不安の時代に問う——』ミネルヴァ書房、2023年)
長短・難易等 前年比較	長短 (短い・ <b>やや短い</b> ・変化なし・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問1	説明	250字	筆者の言う2種類の「責任」のうち、「内発的な責任」がリスク社会においてどのような役割を果たすことを期待されるかを説明する出題。課題文全体にわたって論じられている「外部から割り当てられた責任」と「人間の内面から生じる内発的な責任」についてその関係を概観し、その上で「内発的な責任」が果たしている役割を説明する必要がある。
			問2	説明	200字	システムで対応できないリスクにシステムで対応しようとする近代社会のリスク対処は、新たな目に見えないリスクを生み出すという課題文の筆者の指摘に対し、なぜシステムによる対応がかえってリスクをもたらすのかを説明する出題。下線部②のある節「2 リスク社会としての近代」を中心に解答を作成することが必要である。

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問3	論述	500～600字	<p>自分自身で考えて判断することなく、周囲の状況や組織の決定にあわせて行動することで「凡庸な悪」が起動し、社会がシステムの失敗を修正する機能も失われてしまうという下線部③の問題提起を踏まえて、自分自身が所属している (過去に所属していた) 集団や日常生活の中で、制度や多数派の意見ないし決定に疑問を感じながらも発言をためらったり、声を上げたりした経験、またはそうした場面に立ち会った経験について、自分自身の判断や行動と課題文の筆者の主張との関係を論じることを求める出題。</p> <p>自らの高校生活におけるクラブ活動での出来事における部員の対応や原子力発電所をめぐる議論、外国人政策に対する社会の反応や過去の戦争に対する現在生きている我々の責任をめぐる議論とさまざまな場面が想定されるが、いずれの場合にも、そこにみられる「外部から割り当てられた責任」と「人間の内面から生じる内発的な責任」がどのようなものであるかを明らかにする必要がある。</p>

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

### <答案作成上のポイント・学習対策等>

名古屋大学法学部の小論文は、民主主義や個人の自由や権利、格差をめぐる議論など、社会のあり方そのものをめぐる議論を取り上げ、現代社会や政治経済といった公民分野の教科書に取り上げられている項目と、実際の政治や経済における出来事とがどのように結びついているのかを考えさせる出題が続いている。そのため、日ごろから新聞やニュース解説などをチェックして、自らの社会問題に対する感覚を養っておく必要がある。

また、名古屋大学法学部の課題文は今回のリスク社会における責任論のような法・政治といった領域にとどまらず、社会・経済全体にかかわる幅広い内容を取り上げる場合も多い。そのための学習対策としては、法・政治学系統の出題だけでなく、社会学や経済学系統の過去の出題例にも目を向けることが有効であるといえよう。